抜苦与楽と応病施薬

呼吸器科部長

堀内武志（ほりうちたけし）先生

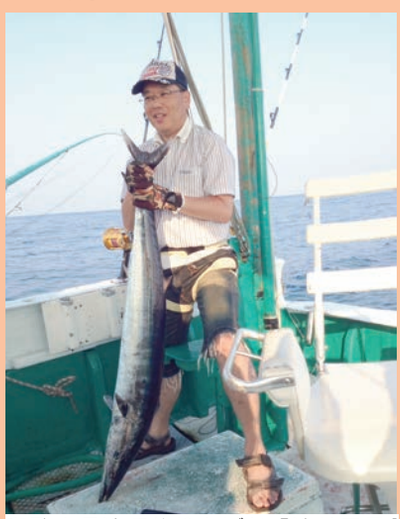
9月から呼吸器科に赴任した堀内です。出身校は岡山一宮高校、そして自治医科大学です。自治医科大学は、へき地医療・地域医療を担う医師を育成する為に、都道府県が共同して設立した大学です。学費が一切不要で、生活費の一部が貸与されますが、卒業後には所定の期間を出身県の知事が指定する公立病院等に勤務する義務年限があることが特徴です。

私の場合は、9年間の義務年限があり、岡山赤十字病院で研修しつつ、5年間は県内のへき地中核病院および診療所へ派遣されました。派遣される地域には、他にほとんど医療機関がないため、内科全般と内視鏡や超音波等の検査、内科系の科のプライマリケア、在宅診療、学校医、小児も含めた健診および小外科までこなす必要がありました。今から思うと、ハラハラするようなことも多く、「よく大失敗しなかったものだ」という感じです。それでも貴重な経験と学びがあったと思っています。義務年限後は赤磐医師会病院、岡山旭東病院を経て、直近まで岡山赤十字病院　呼吸器内科に勤務していました。

自分にとってのdoctor's eyeは何かについて振り返ってみると、学生時代の「医学概論」という科目を思い出します。当時の中尾喜久学長自らが科目責任者で、これから臨床実習が始まる学生に対して行われる講義でした。その中で、「医療の原点とは抜苦与楽(ばっくよらく)である」と教わりました。苦を取り除いて、楽を与える事です。その為には、応病施薬(おうびょうせやく)といって相手の病状にあった治療をすることが必要です。そこで大切なのが視点です。

お遍路さんは「六根清浄(ろっこんしょうじょう)、六根清浄」と唱えながら歩いておられます。この「六根」が、苦しみを感じる入口とされます。六根とは「眼耳鼻舌身意(げんにびぜつしんい)」です。相手のありのままの姿を見ながら、その人の「眼に映るもの、耳から聞こえるもの、鼻でにおうもの、舌で感じるもの、皮膚や内臓の感覚で感じるもの、精神・感情・心でとらえるもの」をそれぞれ学びます。そして再度、その人全体の姿を見つめ、理解しようと努めることを学びました。これが人を「みる」方法で、「診る」や「看る」に通じるものです。

「共に生きる」とは「共に育む」ことでもあるといいますが、共に職場をつくりあげる有用な人材となれるよう努めていきたいです。職場のみんなが「働きやすくなるように」頑張りたいと思っています。宜しくお願い致します。



和歌山県沖で釣り上げた『沖サワラ』体長1m30cm、重さ13kgもあったそうです！

堀内先生は毎週火・木の午前中と第2・4土曜日の呼吸器科の外来診察と入院治療を担当されています。

Doctor's Eyes

KSB瀬戸内海放送の人気番組「自由人、会社人～トップの横顔～」に
高尾聡一郎理事長が出演されました！

8月31日と9月7日の2週にわたり、『自由人、会社人～トップの横顔～』の放映がありました。医師としての思い、全仁会の救急から在宅までの一貫医療について語られました。『わが社のキーポイント』では、涌谷センター長がチーム医療について語って下さいました。今後のビジョンでは「1人ひとりが患者さんにもっと関わっていく。全仁会に携わって良かったと、患者さんからも職員からも言われるような組織にしたい」と話されていました。『共に生きる』を座右の銘として紹介されました。

放送内容は、KSBホームページでご覧頂けます。(秘書・広報室)